

銅 賞

浄化センターと私たちの暮らし

外山 伊桜

八女市立福島小学校

私は、矢部川浄化センターのオンライン見学をしました。

私はおどろいたことが、二つありました。

まず、一つ目は浄化センターで水がきれいになるまでです。最初ちんでんちでは、小さなすなやゴミは、底にしないで取りのぞかれます。そして、はんのうタンクにいるび生物がゴミを食べます。その時、ゴミを食べていて、おいしくないと感じないのかな？と思います。そのゴミをたくさん食べて水より少し重くなつたび生物は、最終ちんでん池で水と分けられて、反のうタンクにまたもどされます。こんなに大変な仕事をして、やっときれいな水になるんだなと思いました。

二つ目は、一日に、一万四百立方メートルもの下水を処理しているということ。最初は、一万立方メートルって、多いのかな？とあんまり分かっていなかったのですが、小学校のプールの水三十二は水分と聞いて、そんなに下水を処理しているってすごいなと思いました。私だったら、そんなにがんばったらつかれてたおれしてしまうなと思いました。

そして、矢部川浄化センターのオンライン見学が終わって、学校から家に帰って家族と話しました。油はそのまま下水道に流すと、よごれをたべてくれているび生物が死んでしまいます。だから、油はちゃんとキッチンペーパーできれいにふき取らないといけません。ま

た、ゴミや食べ残しをそのまま下水道に流してしまうと、下水管が詰まってしまうかもしれません。そして、水はむげんにある訳ではありません。だから、水道やシャワーの水は、出しっぱなしにしないように意識しないとけません。私たち家族では、こんな話し合いをしました。

二十四時間私たちがねている間にも、矢部川浄化センターで働いている方がいるからこそけんこうに生活できていて、きれいな水が飲めているのも、あたり前なことじゃないんだな、と思いました。矢部川浄化センターで働いている方々の努力で守られているくらしを私たちも工夫して、守っていこうと思いました。